

刊夕 日三月五

常 警 日 新 聞

定価 一部金五銭 五部金五拾銭 郵費別
 廣告料 五部十二字 第一行金五拾銭
 日曜 祭日の翌日 休刊
 発行所 常 警 日 新 聞 社
 印刷所 常 警 日 新 聞 社
 電話 六三〇番

赤ちやんとのお話 (三)

信榮幼稚園
高木保母

これは別の話ですが half Conscious Education 半意識の教育といふことが——この頃の教育上、潜在意識が喧しくいはれるやうになつてから、殊に重要視されて来たやうですが、ね物語もその一つとして数へられます。

それから、繪話といふのがある。二年目位から子供は繪に興味を持つやうになります。満二歳位になり、まずと、たゞ見て居るばかりでなく、見ながら獨りで言葉を出すやうになる。「これワン／＼ワン／＼がごはんをたべてゐる、オイチャ／＼」などといふ。さうなつた時は、その子供の意識が確かに納の上に現はれた色とか、形とかいふことの外に、及んで来た證據です。その繪に含まれてゐる意味といふか、精神といふか、さういふものに、彼の注意が動いて来た、子供がその意味を考へ始めた證據だといつてよろしい。それをお母さんが気が付かないでゐると、子供の方から催促される。それで繪を動機にし

て、繪を對象として、繪を中心としての、お話が始まる。

私は斯ういふお母さまに會つたことがあります。そのお母さまは「私にはとても子供に話なんて出来ません何を話してよいのやら、ちつとも分りません」といへられました。そのお母さまは學問のない人かといへばさうでない、高等の學問を受けた方です。私は其の時答へたことを、今はつきり覚えて

【朝】味噌汁、ふき、小付、こんぶ

【晝】ハムライス、福神漬

【晩】煮込、鶏肉、葱、ゆで出しうどん、酢の物、玉菜、二杯酢

えてはゐませんが、私が今日さういふ質問をされるとしたら斯う答へます。「それはお母さま、あなたのお子さんに聞いたら分ります」と子供に話をするのに、その子供に聞くと、は變な答へ方でありますが、然し子供に聞くといふことが一番手近かな間違のない方法だと思ひます。詰りさつき私の子供が一歳の頃いつたといふ、あの「あつち、ワンワン、あつち、トトト、ワンワン、あつち、トトト、ワンワン」

ン、トトト、はいちやい、これを聞いたお母さまは、この子供への興味の對象がどういふところにあるか、察することが出来るし、どういふ性質の話が子供に好まれるかを知ることが出来ます。

【完】



学校の窓から

小林 徳雄

お屋根の向ふは海だろか
 遠いお空を
 雲がゆく

飛行船に似た白い雲
 のつて見たいな
 あの雲に

夕焼の空 あの下に
 きれいな町が
 あるといふ

海を渡つてその町に
 行つて見たいな
 雲の上に

店主が店員を連れて行く

か 正 正 正

れ シ シ シ

る イ イ イ

て 喫 食 食

行 茶 堂 堂

正 シ イ 酒 場

平・田町

ラレストサロン

電二五三番

洋食 毎度有難うございます

エビフライ

ピフテキ

喫茶 宴会

コンパル

女給數名募集

平野前新道通り

TEL・666

帽子折中

子と春シヨールマツクダウンセール

値下賣出

一足お先に!! (他店同業者より) 奉仕させていただきます

絶好の... 御買時かと存じます

新人の店

大黒屋

平 三 電 1.3

折中

シヨール

60セ 均一

1.00均一

1.50均一

2.00均一

90セ 均一

1.40均一

2.00均一

合着毛、綿メリヤスシャツ出賣

冬シャツと春シャツとの交換期が参りました

肌ざわりのととも良い洗濯のきくシャツが取揃へました

新人の店

大黒屋

平 三 電 116

ガスマッシュシャツ 400ヨリ

上ガスマッシュシャツ 380ヨリ

スマッシュシャツ 350ヨリ

上スマッシュシャツ 320ヨリ

毛シヤット 100ヨリ

株 債 券

株式賣買ノ忠實ナル御相談相手トシテ

御利用下さい

尚御希望ノ方ニハ當店獨特ノ「野線上ヨリ見タル新東觀測」ヲ御送シマス是非一度御覽ヲ願ヒマス

株式債券現物賣買

丸井株式会社

平町田町 七十三

電話 四六番

◇水戸市井傳醬油店特醸醬油一手卸販賣イタシマス

御取引御希望ノ方ハ御報次第店員參上致サセマス

外務員募集

新學期 通學服賣出

男兒用

紺サージ金釦服...3.60ヨリ

黒小倉服...1.60ヨリ

女兒用

紺セルセラ服...2.60ヨリ

特製黒小倉服...3.60ヨリ

お嬢ちやんお坊ちやん 方の可愛い通學服を豊富に取揃へ特賣提供

ふかや洋服店 平 三 電 208

踏切の擴張に

危険と不便の増大 多大の脅威を感じて連判状

佐藤三平氏の製材工場 専用鐵道延長を日論む

一時町民から非常な反對を蒙つて町會に迄問題化した佐藤三平氏の火力製材工場が今度は製材運搬の爲めに専用鐵道を敷地迄延長する計劃を樹てたが是れが爲めに舊城跡を中心とする鐵北方面の要路に當る城坂踏切の幅が擴大し交通上危険と不便を増大するといふので同方面區民が大なる脅威を感じ連判状を作つて町役場に反對の陳情書を提出した

町の進展に

重要な道路

鐵北區民舉つて

▽反對の叫び

城坂踏切擴張問題の経緯

同計劃は佐藤氏が城坂踏切の擴張と相俟つて道路占用の同意を平町に求める必要がある爲めに先に十二尺の使用願を提出し一時土木委員會を通過したが其後同計劃が交通上非常な支障を來し將來鐵北方面の進展を阻害する事甚しい点あるに鑑み再度土木委員會を招集して同意を取

ぬ道理はないと土木委員會に於て最も強硬論者の新井滋藏氏其他が主張した爲め「慎重調査の必要がある」として同意願の採否の即決を延期し今日に及んで居る、かくて同問題は町の進展及び町民の利害を賭して漸く重要性を帯び今後の成行きを刮目するに至つた折柄鐵北區民が連判を以つて反對の意志を闡明するに至つた事として問題は全く表面化し一企業者と多數の町民が對峙してその利害の輕重を社會に問ふ事となり明四日急據委員會が招集される筈である

痛切な

區民の願意

陳情書けふ提出さる

鐵北區民から本日平町役場に提出した陳情書は左記の如く言々句々血を吐く響きが切實に潜んで居る。今度當町城坂踏切に對し佐藤三平氏より専用線布設のため町道路占有許可願の申出がありました由聞き及びました城坂踏切は鐵道以北の住民に取りては誠に咽喉を扼する重要道路でありまして其交通は一般町民並に男女學生の通學を合算するときは日々數の多きに達し將來鐵道以北の發展と相俟ち多々益々利用の度を増進するのであります、然るに一方鐵道の入換作業は運輸交通の發達と共に一層頻繁となり從て遮斷器の閉鎖時間は彌延長せられますから右道路の交通上に及ぼす支障は尠くありません、加之危険の度も加はることは是れ又明かなる所でありまして、特に彼の踏切附近は常に木材が道路に侵出し居るのみならず貨物自動車は路上を占據し交通を阻害する

こと我等通行人の日常痛切に體驗することであり、鐵道以北が發展の遲延する理由も彼の踏切が大なる障害の因となす一つでありまして毎日踏切を通過する時の我等の關心と苦痛とは平常これと關係なき町民諸士の到底想像も及ばざることであり、然るに今や此の上鐵道線路が増設せられ更に支障と危険とが加はることは我等關係住民の眞に堪え難き苦痛であります。此度佐藤三平氏の専用線布設は單に佐藤三平氏一人の利害に基く打算的計劃の由承知して居りますが若し一營利的個人の爲に多數の町民が犠牲になることは寔に不可解であります、況んや道路は將來永遠に公衆の利便を左右する重き使命を持つて居ります、然るに此の道路の一部を割讓して迄尚且つ多數町民が苦痛を忍ばねばならぬ理由は何處にありませうか、何卒賢明なる町理事者並に土木委員各位に於かれましては此の明瞭なる利害得失を篤と辨別せられ吾等關係住民に此の上不利不便の無きやう充分善處せられんことを茲に連署を以て懇願する次第であります

優良職工

工場協會表彰

昨日福島市公會堂に開催された本縣工場協會總會で郡下工場従業員中優良職工として表彰されたのは左の如くである

(磐城セメント) 渡邊榮藏
野木重政 猪狩藤吉(白川白煉瓦工場) 鈴木西松
片山澤吉 廣瀬庄太 四家留吉 鈴木英吉 箱崎淺治 下山田嘉十郎 廣

青年評議員會 郡下青年團評議員會は昨日磐城中等學校に開かれ縣聯合青年團總會への出席者を左の如く決定した

瀨淺吉 安齋甚三郎 古川源之丞 下山田良助
金賀一 鈴木菊治 箱崎梅吉 和久本初太郎 宮内常太郎

東京短期(本日)

新東	寄付	大引	高値	安値
一	二	三	四	五
六	七	八	九	十
十一	十二	十三	十四	十五
十六	十七	十八	十九	二十
二十一	二十二	二十三	二十四	二十五
二十六	二十七	二十八	二十九	三十
三十一	三十二	三十三	三十四	三十五
三十六	三十七	三十八	三十九	四十
四十一	四十二	四十三	四十四	四十五
四十六	四十七	四十八	四十九	五十
五十一	五十二	五十三	五十四	五十五
五十六	五十七	五十八	五十九	六十
六十一	六十二	六十三	六十四	六十五
六十六	六十七	六十八	六十九	七十
七十一	七十二	七十三	七十四	七十五
七十六	七十七	七十八	七十九	八十
八十一	八十二	八十三	八十四	八十五
八十六	八十七	八十八	八十九	九十
九十一	九十二	九十三	九十四	九十五
九十六	九十七	九十八	九十九	百

平町人事

△鎌田町五三 大原安助氏
三男郁三

おひよりののちやん(本郡本)



印刷の御用は
設備完全の
「常磐毎日」へ
電話六三〇

舗装工事と 鎌田山開鑿

既に設計成る

十一日の町会で負擔金決定

既報平土木監督所が工費一萬五千圓で着手すべく豫て設計中であつた平町四五丁目及び驛前より田町通を経て常磐銀行横町に至る縣道の舗装工事並に鎌田橋の取付道路として工費二萬圓で着手する鎌田山開鑿工事の兩設計書は既に完了するに至つた爲め平町は来る十一日町會を開き地元負擔金として舗装工事に五千圓、開鑿工事に五千圓の支出を附議する事になつた尙平町の

受益者の 負擔金割當

別項平町國縣道舗装工事の受益者負擔金に關し町役場では来る六日午前十時から町會諸事堂に關係區長會を開き割當の協議會を開く

お尋ね者が 平署の網に

各處を荒し廻る

伊達郡半田村字南半田生れ住所不定佐藤忠一(三)は昨二日小名濱町を徘徊中舉動不審で警部補派出所に檢舉されたが平署に同行取調べると昨年八月二十七日小名濱町字小瀧大工職吉田金一郎方から衣類二点(價格十圓)を盗み更に去月中四倉町字新町佐藤萬助方からも現金六圓及び衣類等を窃取し豫てよりのお尋ね者と判つた

商友會 總會

五日に開く

平商友會第十七回定期總會は来る五日午後一時より平商業學校講堂に開催昭和九年度決算承認の件、同十年度豫算編成の件、役員改選の件に付協議すると

呼び物の 學童繼走

優勝校何れ

磐城中學校第三十七回陸上運動會はいよいよ明後五日華々しく開催されるが當日の呼び物となつてゐる小學校兒童の八百米繼走への出場校は植田、平第一、平第三小名濱、草野、大浦、好間内郷第二、同高坂、神谷の十校で何れも郡下に覇を唱えんと猛練習に心血を注いで居り興味の中心となつて

歌謠曲の東海林氏

平館で市民に初デビュー

「赤城の小守唄」でお馴染みの歌謠曲界の寵兒、バリトン歌手東海林太郎氏は来る十七日東京ラブミー化粧本舗宣傳班の一行と共に來平晝夜二回に亘り平館で市民に初デビューする尙同催しには漫談及び化粧實演等があり夫々斯界の大家が出演すると

更生狀況

縣が聴取する

郡下の八年度經濟更生指定村である大浦、飯野、神谷の三村の更生狀況調査の爲め縣では明四日午前九時から団体事務所樓上に三村當局を招集實行狀況を聴取すると

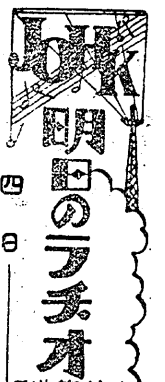
雄辯報國の氣概

郡下青年有志熱辯を揮ふ

郡下聯合青年團主催第四回郡下青年雄辯大會は昨日午後二時から磐中講堂で開催各青年代表辯士拾名言々火を吐く熱辯の後入賞者左の通り決定した

入賞者と演題

△二等「非常時下産業青年の使命」内郷小林重雄
△二等「農道精神の提唱」藤原智利繁松△三等「更生の途上を急進して」磐崎大平義平△四等「郷土



明日のラジオ

今晩は南東の風 驟雨あり明日は 天氣好し

今晩の部

後六、〇〇 子供の時間 合唱と獨唱 J.O.A.K. 唱歌
後六、二五 基礎英語講座 (一)岡倉由三郎
後七、三〇 講演「海軍々縮會議と國民の覺悟」法學博士大山卯次郎
ある尙右繼走は午前十時半頃豫選、決勝は午後二時頃行はれる豫定であると

明日の部

後八、〇〇 管絃樂 交響曲「新世界より」日本放送交響樂團
後八、五〇 浪越踊「名所佳景額」浪越演舞場中繼
後九、五五 日本棋院春季東西大手合戦續
後九、三〇 時報 ニュー
後一、〇〇 野球試合實況 東京大學野球聯盟リーグ
後一、二五 寄席の夕桂 文樂外
後八、三〇 長唄「觀進帳」唄吉住小三藏 笛望月長之助外
後九、〇〇 時事解説

相場好轉に 米價十錢高

石城販賣利用組合平農倉庫の共同販賣は昨日午後三時より同所で執行四等建値最高十一圓三十二錢、最低十一圓七錢で合計百十俵が志賀信雄氏外五氏に落札

赤ちゃん大會に 出場百十二名!!!

本日正午迄の申込み

既報四日午前九時から藤田女學校に開かれる平町第一回赤ちゃん大會の申込みは本日正午迄に百十二名に達し盛會を豫想されて居るが平町では當日の審査員を左の如く決定した

(醫師)酒井國三郎 金成 忠義 吉田久雄 増田之藤 沼平次郎 志賀政光 佐藤武之 若松信吾

奴行列に 臨時列車

十日に五往復 平驛は来る十日の渡邊村諏訪神社の奴祭當日に平、勿來兩驛間五往復の臨時列車を運轉すると

平裁判たより

△双葉郡木戸村大字山田濱字後中一五大工松本好次郎(四)が弟松本八郎の妻フサノへの鬱憤から去る二月二十日午後八時半頃同家入口にあつた風呂の桶蓋へ藁を載せて放火した事件はこの程豫審終結福島地方裁判所の公判に附さるゝことになつた

木村科醫院

平町六丁目橋際 電話三〇九番



明治太平記

(無断断絶)
上映及上演

(作) 寺島 権史
(監) 野口 口
権史

第一四回

刺客ばやり (六)

木隠は、がんだうの光り
をさしむけながら夜具の襟
をとつて引はがした。

夜具の下から現れたのは
若い肉ぶとりのした女だつ
た。ねん髪で突つぶした
まゝ身動きもしないが、し
かし死んでをるのではな
かつた。

「親分女にけがありませ
んぞ」

木隠はしどけなくつつふ
してをる女の、襟首をとつ
て引起した。女は眼をひら
いてゐるが、極度の恐怖の
ために舌がこわばつてをる
ものか、聲も立て得ない。
丸ぼちやの肉ぶとりのした
情的な容姿を、じいともて
天竺の安藏は

「廣澤の愛妾だな、と
おもつた。」

「をんな、誰がふみこんで
てゆえの旦那をこん目にあ
はしたかいつてみる」

木隠は情容捨もなく女の
ねん髪をぐいと引いた。
「……」

女はそれほどされても無
表情にたゞくちびるをかす
かに動かしてみせた。
「一人か、それとも大勢か

「……」

「てめえは、なぜ旦那をた
すけなかつたのだ。旦那と
一所になせ死ななかつたの
だ」

「……」



女は、傍らに無惨な姿に
なつてたふれてゐる廣澤參
議の血みどろな死體に視線
を移すと、無表情なその瞳
が怪しくかがやきすぐに兩
手を顔にあてがつてしまつ
た。

「親分」
木隠はいましくしげにい
つた。

「……」

木隠は女をつつ放しぬき
身をさげたまゝ參議の死骸
のそばへやつて來た。
「野郎、てめえを殺す爲め
に我れアふみこんだの
だ、それなのに何だつては
かの奴の手にかゝりやがつ
た、畜生！ かうしてくれ
ぬさ身を振りかぶつて堂

々たる體驅の廣澤の死體に
あひせかけた。
「畜生！ よくも……」
「おい、木隠よせ」
天竺は惨忍な木かくれに
あきれて顔をしかめた。
「なアに、放といつて下せい」
「死骸に刀をあてるなアむ
ごいぞ」
しかしそのまゝに木かく
れは廣澤の死體につゞけさ
まに一二ヶ所刀をあて、
しまつた。
「親分、さア歸らう」
「女をどうする」
「親分、末練があるのか」
木かくれはがんだうの放
射の中でニヤリ笑つた。
「なアに、未練など……だ
が廣澤の下手人をあくまで
きただしたいのだ」
「下手人？ 廣澤を殺したの
アおれたらだ」
「なに！」
「明治白浪五人男の二人が
參議廣澤兵介眞臣を殺した
にちがひない……なア、女
ようくおぼえとけ、てめ
の旦那を殺したのは白浪五
人男の頭目天竺浪人と、木
かくれだと、胸にさざみこ
んでおけ、いゝか……親分
それでいいぢやないか」
「なるほど」
安藏は、政府高官の暗殺
をうけおつたことに、はじ
めて氣がついたやうに、木
かくれの凄じい笑みにつられ
てニヤリ笑つた。

外科 専門 X 線

上田外科醫院
平町南町
電話一二九番

吸入用酸素 純度 99%

度量器
モノサシ
マス
ハカリ
器量計
體溫計
寒暖計

關内藥局

秤ノ取緒・垂糸・修繕致シマス
寫真材料一式販賣致シマス
電話四〇番

毎度有難う存じます
レストラン
平岡 詔
電話 624

急 告

保險外務員募集
◇御希望の方は左記へ御申込
み下さい
愛國生命保險株式會社
磐城代理店 松崎長三郎商店
平町新川町 電話一七二番

貴方の御家庭に

お手不足は御座いませんか
本會を御利用下さい
直に家政婦を派出します
親切 料金は極めて低廉で
町寧 妊産婦の御家庭 お留守居番
御病人の付添 年寄やお子さんの付添
炊事や 雑用
派出多忙に付會員至急募集
平町紺屋町二(電話二二三番)
上原家政婦會
會主 産婆 上原通子